

第6回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会

- 日 時 平成27年10月21日(水) 午後3時～5時20分
- 場 所 府中市役所北庁舎3階第3会議室
- 出席者 委員側：都留会長、並木副会長、加藤委員、川崎委員、嵯峨委員、中島委員、
藤田委員、堀江委員、森委員、
事務局側：町田政策総務部長、五味田政策総務部次長兼政策課長、
佐藤政策課主幹、大沢政策課長補佐、大木主査
- 議 題
- 1 総合戦略(案)について
 - 2 人口ビジョン(案)について
 - 3 答申について
 - 4 その他
- 配布資料
- 資料1 府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)
資料2 府中市人口ビジョン(案)
資料3 答申書(案)
- 傍聴者 5名

1 議題

(1) 総合戦略（案）について

●資料1をもとに説明（事務局）

●府中市の総合戦略について、これまでの会議のなかでも、次の二点も強調してきました。一点目は、他市にない政策の独自性、独創性があること、二点目は、仮にこの戦略から「府中市」という言葉を削除しても、府中市の総合戦略とわかるような「府中らしい」内容にしたいということです。これまでの会議でも、委員の皆様から積極的に発言いただいた結果、本日の資料のとおり総合戦略案としてまとまってきました。本日は、基本目標1から順番に議論していきたいと思います。なお、本日で文面は確定させる必要がありますので、修正をご提案いただく場合は、できるだけ代案をいただきたいと思います。（会長）

<基本目標1>

●数値目標である「市内従業者数」の目標値が「現状維持」となっているのは、現在の減少傾向に歯止めをかける必要があるから、とのことですが、その説明が目標に記載されていないと、現状維持を目標とする意味が伝わらないと思います。（委員）

→説明を追加します。（事務局）

●現状と課題のところの表現で、「製造業、情報通信業、～などに従事する方が多くなっています。」となっていますが、この並べられている産業の中には、昔からある産業もあれば、新たに入ってきた産業もあると思いますので、「製造業、情報通信業、～など多方面に従事しています」と表現した方が合っているのではないのでしょうか。また、市内事業者のアンケート結果では、市内の居住割合が全社平均で31.4%となっており、これは非常に高い数値だと思いますので、多くの人が市内で働いているということを明確に表現した方が良いと思います。（委員）

●一点目は、従業者の数が多いい産業を挙げているので、現在の表現で問題ないと思います。二点目は、市内居住者が多いということは確認されましたが、それが何を意味するののかについては結論が出ていなかったと認識しています。これまでの議論の中では、まず、企業の従業員に市内に住めとは言えないという話が出ていました。しかし、企業にとってもワークライフバランスの観点からは、職住接近がもちろん望ましいため、そのような意味合いであれば記載できるという話が出ていたと思いますが、いかがでしょうか。（会長）

●数値目標も、市内の従業者数を減らさないとしているため、ワークライフバランスのことを考えても、記載するべきであると考えます。また、事業者アンケート結果でも、従業員が市内に住むメリットとして、交通費を払わなくても良い、または、災害時にすぐに人が駆けつけられるなどの意見がありました。事業者側にも従業員側にもメリットがあるので、記載した方が良いと思います。（委員）

●ご意見には同感です。しかし、記載することが適切なのは難しいところです。（会長）

●現状と課題の一番下のところに追記してもらいたいです。若い世代とか家庭を持っている方々にとってワークライフバランスはとても大切です。もちろん全員は無理だと思いますが、各企業において、従業員の市内居住率が上がることは大変良いことだと思います。（委員）

●それでは、現状と課題に「就労ニーズに応える魅力ある就労環境や職住接近等を目指すことも課題

です」というような文章を入れたいと思います。(会長)

- 基本的方向の「(1) 基盤産業の経営安定化～」の部分ですが、そもそもの話に戻ってしまうかもしれませんが、府中の基盤産業は製造業だと思いますので、大企業の色が強くなってくるとと思います。これについては、以前、会長から、KPI に設定することの是非や、そもそも大企業の経営を安定化させることを施策として実施することは不可能ではないか、という話になっていたと思いますので、中小企業支援で支えていくという流れになっていたと記憶しています。しかし、この文章だけを見ると、結局、基盤産業の経営安定化は大企業の支援、という印象を与えてしまうと思います。(委員)
- これは以前から私も意見を述べてきた部分ですが、ここで用いている基盤産業という言葉は、大規模事業所のみを指すのではなく、全ての市内企業を含んでいる、と理解しています。市内に存在する企業の経営安定化を市ができる範囲内で目指していくということを記載していると考えています。しかし、現在の表現ではそのような意味と解することは難しいというご指摘ですが、代案はありますでしょうか。(会長)
- 「基盤」と入れてしまうと、製造業というイメージが強くなってしまいます。生活サービス業も雇用を支えているという意味合いにしていきたいです。例えば、注釈の中に、「基盤産業の主なものは製造業などですが、ここには小売業などの生活サービス業も含まれます」などの表現を入れてはどうでしょうか。(委員)
- そうすると、「既存の企業の経営安定化」という表現になるでしょうか。(会長)
- 府中市の総合戦略における「基盤産業」という言葉の定義を記載すれば良いと思います。(委員)
- 産業分類という観点から言うと、基盤産業という区分はありません。この言葉は誤解を招きますので、「市内企業」はどうでしょうか。(会長)
- その方が企業全般という意味を表せると思います。その中で、特に製造業や情報通信業、医療・福祉業の従業者数が多い、という意味合いも伝わるとと思います。(委員)
- もっと平易な言葉で言えば、「市内に所在する企業」になります。そのような言葉に修正したいと思います。(会長)
- 現状と課題のところには、大企業のようなニュアンスが入っていますが、結果的に主な取組には、基本的に中小企業の支援、地域の活性化、そして最後に、工業技術センターにおける特許取得事業の補助が入っています。特許については以前に指摘して加わった内容です。これからは、知財を持っていないものづくり企業は弱くなっていくと感じています。これらの文章全体を見ると、大企業というイメージではなく、地域全体の企業というイメージで書かれていると思います。経済センサスはまだ速報版しか出ていませんが、府中市において最も従業員を抱えている産業は、卸・小売業で 21,505 人、次に製造業 17,328 人、医療・福祉 16,732 人となっており、1 万人以上抱えている産業として現状と課題にこれらの産業が特出しされているため、内容的に問題はないと思います。(副会長)
- 内容に問題があるのではなく、「基盤産業」という表現が誤解を招く可能性があるということです。簡単なのは、「市内企業の経営安定化」とすれば、大企業も中小企業も含まれます。(会長)
- 基本的には、まち・ひと・しごとの創生なので、新たに、まちか、ひとか、しごとを作らなくてはならないことは要点だと思いますが、まち、ひとは良いとして、しごとで考えると、文章表現はあ

る程度絞るべきだと思います。5年前と比較すると、府中市では600社の企業がなくなっていて、企業環境は経済情勢により大きく変わります。情報通信業も、一時盛り上がりましたが、一気に2,000人以上減っている現状があります。なくなった産業に代わり、また新しい産業が入ってきてくれば良いですが、基本的に、新しい産業を府中市に持ってくることは、現段階では難しいと考えています。それよりも、今ある企業を守るという意味で、現状維持という目標が良いと思います。私は府中市の就業人口はもっと減ってもおかしくないという危機感が強くあります。この5年間はある程度、既存の企業に絞り込んで、その中で基盤となる産業が新たに出てくれば良いと考えています。(副会長)

- この文章も、皆様のご意見も、考え方がずれているわけではありません。問題は言葉です。「基盤産業」と聞くと、どうしても「基幹産業」という意味に取られてしまう恐れがあることが問題です。

(会長)

- 基盤産業というのは、域外からお金を稼いでくるもので、製造業は市内で多く稼いでいるわけではなく、海外などに売って、地域にお金を持ってきてくれる産業です。一方、非基盤産業とは、市内に商圈があり、その中でお金が回っている企業のことです。その意味で、医療・福祉や卸・小売などは非基盤産業に分類されますので、このような産業をどれくらい細かく捉えるかによって表現を変えないと、誤解を招きます。(委員)

- 生活を支える基盤となるような産業という意味で言葉が伝われば良いと思いますが、伝わらないという意見もあるので、やはり言葉を修正する必要があると思います。(会長)

- 医療・福祉については、この5年間で116事業所増えていて、従業者は3,250人も増えました。基盤産業よりも、非基盤産業に今シフトしているのが現状です。(副会長)

- その通りです。非基盤産業の生活関連サービスの方が、地域の雇用を守っています。そこを守りたいという施策は良いのですが、そのジャンルを表現するときに「基盤産業」と言ってしまうと、製造業というイメージになりかねません。生活関連サービスが含まれるというような表現をした方が良いと思います。私は、この地域では生活関連サービスを支援するべきだと思っています。(委員)

- 基本的な認識はどの委員も同じですので、言葉の問題になっています。何か名案はありませんか。

(会長)

- 基盤産業という言葉に、府中市ならではの定義を追記していただければ良いと思います。府中市の言う「基盤産業」という言葉は、雇用を支えている製造業、情報通信業、卸・小売業などが含まれます、といった表現であれば問題ありません。あるいは、「市内企業」として全ジャンルを含むものとするかどうかです。(委員)

- 「市内産業」で良いと思います。経済センサス等における言葉の区分が色々あると思いますが、市民に誤解を招かないことが一番大切です。(委員)

- 「市内産業」となると、大きな企業も含める、ということでしょうか。(委員)

- 「市内産業」と表現すると、大企業も含まれますが、施策等における対象として大企業が入っていないことは、文章を読めば理解できると思います。(会長)

- 確かに、現状と課題に記載のとおり、全国有数の企業が立地していることが本市の強みであり弱みにもなり得るといふ部分を踏まえると、中小企業を対象にしたものに見えると思います。(委員)

- 「市内産業」が何を意味するかは、記載内容を見ればわかると思います。ただ、ここで対象としているのは、正確には中小企業だけでもありません。雇用吸収力の大きな企業も支えていくということが大事であると私は理解しています。それでは、「基盤産業」は「市内産業」に修正したいと思います。(会長)

<基本目標2について>

- 基本的方向における「地域の連携によるにぎわいの創出」について、具体的な施策等はどちらかという環境整備の内容に見えますが、どうでしょうか。(委員)
 - この部分の記載内容についてはインフラ整備を意味しているものではありません。(会長)
 - エリアマネジメントという言葉に注釈を入れて説明した方が良いと思います。(委員)
 - 府中駅周辺のエリアマネジメントとは、再開発事業や市役所の建て替えがあり、また府中本町駅周辺から府中駅周辺の間に入っているエリアを指定して、地域の人達や商店街の人達と一緒にマネジメントしていこうという多面的な内容が入っています。(委員)
 - エリアマネジメントという言葉を設定する時点で、何か想定している内容があるのではないのでしょうか。この文章では、その辺りが読み取りません。(委員)
 - マネジメントと表現すると、マネジメントする主体があると考えてしまいます。文章表現を修正した方が良いと思います。(会長)
- 府中本町駅周辺から府中駅周辺を中心市街地として設定して、観光協会や商店会なども協力してにぎわいを創出していくことをエリアマネジメントとして表現していますが、内容が伝わりづらいため、注釈をいれます。また、ハードだけでなくソフトとして地域の方々とともににぎわいの創出に取り組んでいるため、その辺りがわかる表現に修正します。(事務局)
- 関連する記載のなかで、主な取組に「外国人観光客のために多言語化対応案内板の設置や市内施設における無料 Wi-Fi サービスの提供などを実施する」と記載されていますが、これは中心市街地の施策で取り扱う内容ではないのでしょうか。(副会長)
- 中心市街地の施策として取り扱うか、ワールドカップ・オリンピックの施策として取り扱うかは線引きが難しいと考えています。ただ、ワールドカップ・オリンピックにおいて味の素スタジアムが会場となるため、中心市街地施策として指定された地域に限定せず、味の素スタジアムを含む広い範囲で取り組めるよう、ワールドカップ・オリンピックの施策として記載しています。(事務局)
- ワールドカップとオリンピックの併記の順番は開催時期を考えると、逆にした方が良いと思います。(副会長)
 - 時系列に修正したいと思います。(会長)
 - 数値目標について、市政世論調査の数値ではなく、今回実施した定住・子育てに関するアンケートにおける府中市に愛着を感じている若い世代の市民の結果数値を掲載すべきだと思います。また、「歴史や文化、スポーツに触れる機会の充実」という記載ですが、ふるさと意識を持っている若者は、将来的に地域に戻ってくる可能性が高いと聞いています。対象を若者に特化した表現にした方が良いのではないのでしょうか。(委員)
 - 若者の地域への愛着については以前の会議でも議論になり、他の目標における施策に盛り込んでいたと記憶しています。(会長)

→基本目標4の「地域交流・活動の促進」において、「子どもや学生が地域づくりに関わる機会が持てることを目指し」という表現で記載しております。(事務局)

●数値目標は、もともと定住・子育てアンケートにおける結果数値としていましたが、このアンケート調査は今回の戦略策定にあたり実施したものであるため、継続的に実施される市政世論調査の数値にしているものです。(会長)

●これから定住してもらおうということを考えると、若い方の意向について取り上げるべきだと思います。(委員)

→市政世論調査における定住意向の調査は、年齢別でも集計することは可能です。毎年、年齢別の傾向も集計結果として掲載しています。(事務局)

●市政世論調査の年齢別人口で集計できるということです。(会長)

●若者の定住意向が指標に入らないのはおかしいと思います。(委員)

●それでは、市政世論調査の数値を用いて、若い世代に特化した数値を数値目標とすることとします。(会長)

<基本目標3>

●今回、数値目標として設定している合計特殊出生率は低すぎるのではないかと感じる人もいますので、全国的な傾向などをお話させていただきます。合計特殊出生率が高い地域は、3世代同居住宅が多く、伝統的な地域社会が生きている地域だと言えます。東京都は最下位であり、大都市圏の多くは出生率が低いことから、核家族化、単身世帯が多く、日本の社会の成熟の結果であるとも言えます。わたしは、この現実を見ると、一番高い沖縄県のレベルにまで出生率を上げるという非現実的な数値を目標に設定することは、少なくとも東京ではできないと考えています。また、国として、財源をかけて子育て施策を進めていくのであれば、出生率も上げることは可能であると思いますが、今の日本に、フランスのような手厚い子育て施策を行うことは簡単ではないとも考えています。このような現状において、財源に限界のある一つの自治体ができることは限られてきます。データを見ながら現実的に達成する可能性を考えると、1.45程度が上限であると考えています。これについて、また、これ以外についても何かご意見はありますか。(会長)

●現状と課題の中で、矛盾しているように見える文章があります。「本市は～子育て環境が充実したまちです」と記載されていますが、その後に「保育所の整備が追いついておらず、～安心して子どもを育てられる環境を作るためには、～」となっています。「子育て環境が充実したまち」を「子どもへの医療環境が充実したまち」といった表現に修正する方が良いと思います。(委員)

●「子育て環境が充実したまち」として表現したい内容は、医療機関や医療制度など、セーフティネットがあるという意味合いです。一方、その後の文章表現は、セーフティネットよりも、より育てるというニュアンスが入った内容です。セーフティネットとしては充実していますが、より充実した子育て環境としては、まだ不十分であるという課題を提示している文章だと理解しています。(会長)

●「子育て環境が充実したまち」とは、公園の整備や自然環境などをトータルに見て育てやすいという内容です。この文章は、読み方によっては、子育て環境が充実しているからこそ、人口が増加し続け、保育所の整備が追い付かないとも取れてしまうため、府中市のポテンシャルのみを強調する

表現の方が良いのではないのでしょうか。(委員)

●指摘のとおり、子育て環境が充実したと記載されているのに、その後に待機児童が課題であるとしていることは矛盾があるように見えるのもわかります。(会長)

●「安心して子どもを育てられる環境を作るためには」という部分が矛盾となっているため、削除すれば問題ないと思います。その部分が抜けても、全体の流れに問題は生じないと思います。(委員)

●それでは、そのように修正したいと思います。(会長)

●主な取組に、「子育て家庭が各種子育て支援事業を円滑に利用できるよう、～地域の様々な人材や団体等と連携や～」と記載がありますが、この団体等の「等」の中には企業や民間事業者が含まれていると思っていますが、企業や民間事業者については、明確に関係者として記載するべきだと思います。私の周りには、子育てサポートを必要としながら情報を知らない人がたくさんいます。そこで、例えばスーパーなどで子育てに関する情報を発信すると、知らない人にも情報が伝わる可能性があると考えています。このように、企業の役割についてははっきり記載しておくことが、より広く子育てサポートの情報発信につながるのではないかと思います。(委員)

●おそらく「団体等」の中に企業なども入っていると思いますが、たしかに非営利団体を念頭に置いた文章になっています。(会長)

→こちらの文章につきましては、子育てひろば事業は非営利団体が主に実施しているため、このような表現になっています。もし、企業等に関する記載をここに入れるとすれば、ご意見のとおり、情報提供的な位置付けになると思いますが、「安心して妊娠・出産できるサポート体制の充実」という部分において「子育てに関する情報をインターネットや子育て情報誌などの多様な媒体を活用して提供する」と記載しています。この内容を行政側だけではなく、様々な企業や機関を活用して実施するといった内容に修正することではいかがでしょうか。(事務局)

●例えば、ヤクルトでは、ヤクルトレディがお子さんを預けられる施設を会社で持っていたりするなど、具体的に活動している企業もあります。しかし、ここに企業という表現を入れてしまうと、企業としてはかなりの負担になると思います。(副会長)

●総合戦略は市が責任を持って実施する重要な施策です。あくまで市の責任として行うものを記載するべきだと考えます。(会長)

●「安心して子育てできる環境の整備」について、全体として量的な拡充に焦点が当たっているような印象を受けるのですが、もっと質のレベルについて明確に記載しても良いのではないかと思います。子育てしているお母さんは、子どもを預かってくれている保育施設が、どのような保育をしているか気にしています。待機児童の解消に向け、保育サービス量の拡充に取り組むと記載していますが、その後に、保育の質も高めていくという表現を追加してはどうでしょうか。(委員)

→保育サービス量の拡充とともに、質の向上を目指す、といった文章を追記します。(事務局)

●市営の保育園だけでなく、民間の保育園の質の向上を図るような仕組みはありますか。(会長)

→新制度が始まって把握できていない部分もありますが、従来、東京都の検査が入っています。また、民間の保育園を評価する第三者機関もあり、その結果も広く公表されています。また、行政としても、小さな預かり施設についても、法的な拘束力はないにしても、教育指導や質の向上に向けた取組を行っています。(事務局)

●今の話は重要な問題だと思います。最近、介護施設の問題などが取り上げられていますが、サービ

スを受けている主体は子どもで、不満を表現できないこともあると思います。ここにある種の情報の非対称性が存在しており、それを利用して質の低いサービスを提供している業者もあるだろうと思いますので、サービス内容のモニターは大事なことだと考えています。そういったことも含めて、質の向上を図っていくという意味合いで修正したいと思います。(会長)

<基本目標4>

- 現状と課題に「自治会に加入しないマンション住民の増加や～」と記載されていますが、マンション住民に限定して良いのでしょうか。もしかしたらマンション住民が多いのかもしれませんが、特定はできないと思いますので、「マンション」は削除する方が良いと思います。(委員)
- その通りに修正したいと思います。(会長)
- 「公共施設・インフラの計画的な管理及び運営」の中身ですが、「公共施設の最適化」や「インフラマネジメント」との内容がわかりづらいと思います。(委員)
- 注釈を入れます。また、最適化については、今ある老朽化している公共施設を全て建替えるというのは厳しい状況があるなかで、機能に着目して整理していくという取組を検討しているところです。(事務局)
- 公共施設の市民1人当たりの延床面積目標値が2.51㎡に下がっているのはなぜですか。以前の資料では、平成23年が2.51㎡で平成24年が2.51㎡になっています。(委員)
- 担当課と最終的に整理していきたいと考えています。(事務局)
- 「地域交流・活動の促進」に、「東京外国語大学及び東京農工大学」という名称が記載されていて、これは府中市にしかない資源なので、ぜひ大学と連携を強化して進めて欲しいと思います。(会長)
- 「高齢者の社会的な孤立を防ぐこと、～機会が持てることを目指し、」という部分は日本語的に違和感があるため、「高齢者の社会的な孤立を防ぐこと、～機会が持てることを一体的にやることで幅広い交流の促進につながる」という表現に修正した方が良いのではないのでしょうか。そういう意図で作られた文章だと思います。(委員)
- 違和感がないような文章に修正したいと思います。(会長)

2. 人口ビジョン(案)について

- 将来展望の概要の後に、人口動向の分析からシミュレーションまで記載する構成になっていますが、いかがでしょうか。(事務局)
- 1.45という出生率は、承認されたものとして認識しています。その他、お気づきの点があれば、メール等で事務局にご連絡ください。それをわたしと事務局で協議してすすめていきたいと考えています。(会長)

3. 答申について

- 資料3の流れで答申書を作成していきたいと考えております。(事務局)
- 答申は、人口ビジョン、総合戦略がまとまった体裁になります。「答申にあたって」の部分は概要という位置付けですので、「答申にあたって」を事務局から読み上げてもらいます。(会長)
- 「答申にあたって」を読み上げ(事務局)

- 誤字を修正してください。「組み」→「取組」。(委員)
 - 「製造業などを中心とした産業都市であり～」の表現は先ほどの議論もありましたので、修正した方が良いと思います。(会長)
- 表現を修正します。(事務局)

4. 閉会

- 閉会にあたりまして、私からお願いとお礼を申し上げます。10月30日に市長に答申をお渡ししますので、ご都合のつく方はぜひご同席ください。また、非常に短期間のなかで行われる協議会でありましたので、委員の皆様には多大なご協力をいただき、誠にありがとうございました。また、傍聴の方も本当にありがとうございました。(会長)
- 事務局を代表しまして、お礼のご挨拶をさせていただきます。7月29日から第1回の会議を開催しまして、本日で第6回目ということで、かなりタイトなスケジュールの中でご協力いただき、誠にありがとうございました。消滅可能性都市として実名で全国の自治体が公表されるという衝撃的な発表があり、国はいち早くこの問題に取り組み、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、各自治体も地方版総合戦略を策定するという流れになりました。来週、市長に答申書を提出していただきますが、その後は、市として総合戦略案を作成し、市議会での報告やパブリックコメント手続きを経て、年明けには成案していきたいと考えております。策定した人口ビジョンや総合戦略につきましては、委員の皆様へ送付いたしますので、ご承知おきください。また、来年度には策定した総合戦略の進捗状況の検証にあたり、委員の皆様にご協力いただくこととなりますので、よろしく願いいたします。(政策総務部長)

以上